



# 日口交流

発行 : 特定非営利活動法人 日口交流協会

E-mail: nichiro@nichiro.org

Home Page <http://www.nichiro.org>

〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-14 麻布台マンション401号

Tel : 03 (5563) 0626 Fax : 03 (5563) 0752



## 新しい年を迎えて

有馬 朗人

皆様、新年あけましておめでとうございます。昨年は年号が変わり様々な行事が続いた目まぐるしい年でした。地球温暖化も加速しており若い人たちから警鐘を鳴らされ、エネルギー問題もますます大きくなっています。今年は良い方へ向かい、平和な世界が広がることを願います。

協会ではロシアでの長年の功績が認められて、モスクワの日本大使館から表彰状を頂きました。年末には日露青年交流プログラムがロシアの招待で実施されました。若い人々が海外で交流し様々な体験を積むことはたいへん貴重なことです。若者には大きな志と夢を持って世界に羽ばたき、活躍してほしい。

国内でもロシア大使館等との関係も良好で、イデオロギーを超えた友好関係が続き明るい兆しも感じられます。お互いの国の文化を大いに学び、議論し刺激を受けることは大切です。願わくは科学技術の面でも協力できるといいですね。

日本は今、高等教育への国の投資額が他の先進国に比べてはるかに低いという問題があります。GDPで見ると小中教育は2.8%、高等教育は0.6%位にすぎません。そんな中で先生たちに無理をさせるのではなくて、国がもっと教育の面倒を見るべきです。研究費も伸びないし、日本の企業は博士号取得者を取らないから若者が大学に残らなくなってきました。外国には政治家にも博士が多くいるんですが。しかも、予算に余裕がないために、本来ボトムアップでやるべきイノベー



ションがトップダウン的な色合いが強すぎる。若い人を育てて本当の意味でのイノベーションが出てくるといけません。若者を育て、意欲を与えるために高等教育費をもっと出して、大学の先生たちが十分教育や研究ができるようにして、若者も学力を大いに付け、研究も続けていけるようにしなければいけない。

最近の若い人は元気がなくて怖がって話さないようなところがあるけど、一流の人

と自由に話し合える雰囲気があるといいですね。私の若い頃、湯川研究所ではコーヒープレイクがあって、みんなでよく集まって議論しあった。アメリカではカクテルパーティーがあって、自分の専門じゃないことで話をしたり他の人の全く違う話を聞くことで色々なヒントを与えられるんです。専門領域に閉じこもってしまうようではいけません。

それから、年寄りも頑張れと言いたいですね。定年をうんと上げて、但し給料は半減して若者に回す。国は社会保障にすぐお金をかけているけど、働いていたら病気にもならないし、本当に困っている人にお金がいくようにして働ける人は働かせたらいいのではないですか。

日本を救うもう一つの課題は女性の活用です。戦後、フランスが人口の減少に悩んでいたときに女性に活躍する場を作り働きやすくしたことで少子化も改善しました。日本ももっと積極的に女性の力を活用しないといけません。

協会は予算がない中で頑張っています。高齢化というけど若者と手を携えてお互いに助け合って、色々な問題でロシアと協力し仲良くやっていく必要があると思います。

私は120才まで生きなければならない理由があるんです。それは2050年で、その年は世界の人口が約90億人に達して

### お知らせ

#### ●マトリョーシカ絵付け教室

日時：2020年2月16日(木) 13:30～16:00

場所：田町「リーブラ」2階造形表現室

入場料：3,000円(お好きな教材セット、お茶代含む)